

## 絵本『七ひきのねずみ』と情報モラル学習

<あらすじ>

7ひきのねずみ達が、あるものの正体を確認に行きます。そして、1番目から6番目までのカラーねずみ達はそれぞれ異なる部分を見てきて、自分の見て来た情報を他のねずみ達に伝えます。しかし、6ひきがどれも違ったもののように見てきてしまい、意見が食い違います。そこで最後に7番目の白ねずみが全体を確認に行くと、それが象であることが解ったのです。

<伝えたいこと>

絵本の最後に「ねずみのおしえ」として

すこし みて わかったつもりは まちがいのもと

すみから すみまで せんぶ みて ほんとうのことが わかるのです

絵本『七ひきのねずみ』（古今社）から引用

とあります。何事も一部分をみただけで判断をしてしまうと間違いを起こす。また、一部分をみただけの判断で人に何かを伝えても同意や理解を得られない場合があること。そんな誤解をしないためには、物事の全体を見なければいけないこと。その重要性。そんなことを子供達がこの絵本を通じて考え、理解してもらえたらと思います。

<絵本と情報モラル>

WEB上で頻繁に行われる文字会話（チャット、メール、ブログ等）では、顔の見えない会話であるが故に特に注意をしなければならぬにもかかわらず、タイトル（件名）のないメールが当たり前に取り交わされているようです。これでは、会話の内容に誤解が生まれて当然です。顔の見えない会話は相手の表情が解らないので細心の注意が必要なのは、主語を省いた述語、感嘆詞のみ等の文字会話も多く見かけます。これらのスポット的な会話を例えるならば、6番目までのカラーねずみ達はまさしくスポット的な行動をとったこととなります。絵本から子供達にイメージを膨らませ、情報モラルと関連付けした質問を投げ掛けることによって子供達は絵本から情報モラルを学ぶことができます。